

一般財団法人日本不動産研究所[®]
地域資源を生かす

～まちづくりからインバウンドまで

七日町「シネマ通り」

シヨンと郊外大型商業施設に併設されたシネマコンプレックスの進出に伴い、全て閉館し現在は建物も取り壊され、「映画のまち」としての面影はなくなってしまう。

戦後しばらくは映画鑑賞する市民が集まり、周辺に飲食店や雑貨店、食品店が連なることで賑わっていたことであらう。確かに現在でも映画館（跡地）の周辺には今でも木造の個人商店や飲食店を見ることが出来る。戦前戦後の七日町及びその周辺は百貨店や商店街、映画館が集積し、

うかがい知ることが出来る。七日町交差点付近に設置されたモニユメント、「シネマ通り」という銘と共に記念碑に「山形国際ドキュメンタリー映画祭 SINCE 1989」と記されている。

国際的な知名度も

「山形国際ドキュメンタリー映画祭」は、89年に山形市の市制施行百周年を記念して実施され、2年に1回で開催されている。また、昨年、映像文化の分野で国際教育科学文化機関（UNESCO）

で、七日町が「映画のまち」として栄えた歴史と、映画に親しみ育まれた山形の文化を今一度呼び起こそうと、08年に「山形と映画」という特集を企画したところ、庄内・最上地方などの県内の遠方地域等から約1000人以上を動員する結果となった。現在は、更に多くの地元市民に我がまちの文化である映画祭に触れて貰おうとCM活動や寄付を呼び掛けており、地元の盛り上がりは高まりつつある。

このPR活動の中心的存在



市民に支えられているフォーラム山形

山形発の「ドキュメンタリー」

世界に認められた映画祭

山形駅から北東方向に位置する七日町、戦後形成された個人商店が建ち並んでいたであらう面影を残す通りがある。その通りは、かつて「シネマ通り」と言われ、戦前から戦後にかけて映画館が集中する市民の娯楽の町であった。しかし、18年の現在、当時の映画館はモーターゼー

買い物と映画を楽しめる娯楽の町として繁華街を形成していたことが当時の資料からも

に申請した「ユネスコ創造都市ネットワーク」における映画分野での加盟が認められた。更に、今年9月に「米國アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門公認映画祭」に指定され、当映画祭のコンペティション2部門において、来年度のアカデミー賞長編ドキュメンタリー部門のエントリー資格が与えられた。

七日町は、「みずの町屋七日町御殿塚」や紅花商人の蔵屋敷を改修した、「山形まるごと館紅の蔵」など、歴史的建造物を利用した観光施設も人気であるが、何より30年も開催されている映画祭は、七日町がかつて映画館の集積地であったという歴史と、映画に親しんできた文化が、現在の山形市民にもしっかりと受け継がれていることの証であらう。（山形支所、不動産鑑定士・橋本 一憲）



映画祭の会場の1つとなっている山形市中央公民館ホール（az七日町）

当映画祭は、県内外・国内外（外国人関係者）に対する山形市の知名度アップに貢献しているが、地元観光客の伸び悩みも課題であった。そ

が「フォーラムシネマネットワーク」である。フォーラムシネマネットワークは日本で初めて市民出資により映画館を運営しようとする団体が母体となり、東北地方を中心に映画館運営のための活動の輪を広げ、映画を愛する各地の市民により出資金を募り設立した株式会社である。当社は山形市香澄町に現在も本部があり、山形市内の映画館として「フォーラム山形」「ソラリス」を運営している。

映画祭の会場は山形市の商業中心部に点在しており、国

業中心部に点在しており、国